

製品名: FoxE3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11085**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	33kDa

抗原情報

遺伝子名	FOXE3
別名	FOXE3; FKHL12; FREAC8; Forkhead box protein E3; Forkhead-related protein FKHL12; Forkhead-related transcription factor 8; FREAC-8
遺伝子 ID	2301.0
SwissProt ID	Q13461
免疫原	抗血清はヒト FOXE3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 81-130

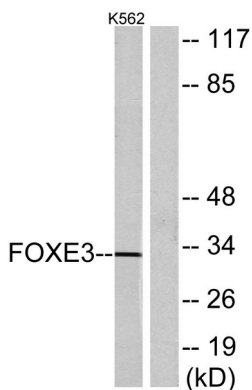
背景

このイントロンを含まない遺伝子は、明確なフォークヘッドドメインを特徴とするフォークヘッド転写因子ファミリーに属します。

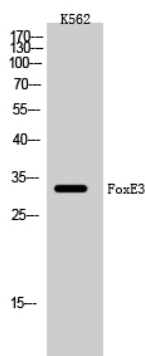
コードされているタンパク質は水晶体特異的転写因子として機能し、脊椎動物の水晶体形成において重要な役割を果たします。この遺伝子の変異は、前眼部間葉性形成不全症および先天性原発性無水晶体症と関連しています。[RefSeq 提供、2009年12月]、疾患: FOXE3 遺伝子の欠陥は、前眼部間葉性形成不全症 (ASMD) [MIM:107250]の原因です。ASMD は、前眼部眼形成不全症 (ASOD) としても知られています。ASMD には、神経堤の第一 (角膜内皮および線維柱帯)、第二 (角膜実質)、第三 (虹彩実質) の間葉性波状構造に関わるすべての奇形が含まれます。ASMD 表現型は、100% の人に角膜混濁 (虹彩癒着の有無にかかわらず)、100% の人にさまざまな重症度の白内障、20% の人に視神経異常を呈することを特徴とします。疾患: FOXE3 の欠陥は、先天性原発性無水晶体症 (CPA) [MIM:610256] の原因です。ヒトの無水晶体症は、水晶体が欠損しているまれな先天性眼疾患です。眼組織の欠陥の重症度に基づき、組織学的に原発性と続発性に分類されており、その発達には最初に水晶体が存在することが必要です。CPA は、ヒトの妊娠第 4~5 週頃の早期発達停止によって発生し、水晶体構造の形成を妨げ、前眼部の完全な無形成などの重篤な続発性眼欠陥を引き起こします。対照的に、二次性無水晶体眼では、水晶体誘導が起こり、水晶体小胞はある程度発達しているが、最終的には周産期に徐々に吸収されるため、眼の欠陥はそれほど重症ではありません。類似性: 1つのフォークヘッド DNA 結合ドメインを含みます。

研究分野

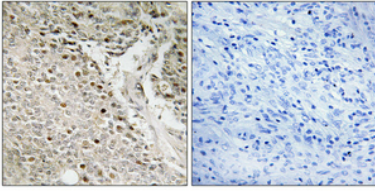
画像データ



FOXE3 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



FoxE3 ポリクローナル抗体を使用した K562 細胞のウェスタン ブロット分析。



パラフィン包埋ヒト前立腺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。